

## 日本語教育実践研究 (12)

## —自律学習を促進する文章表現教育—

宮崎 里司

実践研究 (12) の下で行われている文章表現 8C は、大学場面で必要とされる文章表現能力の習得を主な目的としています。授業では、文章産出過程で現れる問題を意識化させながら、問題解決能力を育成していく活動を行っています。その上で、意見文、説明文、論説文など、特徴的な文体の構成や表現などを確認した上で、それぞれのレポートや研究計画書が書ける能力を習得させることを目標とします。またクラスに参加している大学院生とのペアやグループを形成しながら、共同作業を通して、自分の文章表現能力を向上させ、問題解決能力を育成していきます。

このクラスでは、文章を作成するために、学習ストラテジーと推敲という、2種類の管理能力に注目しています。文章を作成する際には、自分自身の文章作成の過程を意識化し、それを客観的に評価するといった、メタ認知ストラテジー（またはモニター）の活用が不可欠です。構想段階で、選択したトピックやテーマについて、他の参加者とのインターアクションしながら、書く内容を検討します。さらに、見直しの段階でも、同様なインターアクションを経て、自己の文章を磨きます。こうした他者とのインターアクションによる文章管理を、第一のモニターとします。次に、実際に文章作成の過程で生じた問題についても意識化を行い検討していきます。この推敲作業は、他者よりも、自己モニターによる問題解決と捉えることができますが、これが第二のモニターです。このように、2つの異なる管理能力によるモニタリングを行い、他者の評価や意見、自分自身の文章表現能力と向き合い、今以上に能力を高めていくことを目指します。

さらに、ジャーナルアプローチ（言語学習日記）という活動もしています。これは、学習者の自律性を高めるために、学習者自身が、自らの学習を意識化させる活動です。毎回授業の終わりに各自が揃えたノートに、その日の授業の感想をはじめ、自分の日本語学習に対する意識、学習方法、日本や日本語に関する興味などについて書かれたコメントに対し、クラスに参加している日研生から、フィードバックをもらい、翌週に渡します。ジャーナルアプローチは、学習者が自己反省・自己評価を行うことによって自分自身をみつめ、学習の改善をはかる手助けになるばかりでなく、個々に自律学習への意識づけをし、学習態度や意欲の向上にもつながります。加えて、学習者側に視点をおいた授業への構えを教師に意識づけるきっかけにもなる可能性があります。ただし、継続性といった観点から、今後は、どのように運用すべきかと工夫していく必要があるでしょう。

来年度以降、別科の文章表現クラスは、新たに「文章プロジェクト」として始動します。文章能力の習得に特化しがちであった、これまでのクラスデザインを、口頭表現をはじめとした他の表現との統合を目指す意義を、学習者に理解させ、かつ自律的に学習させるよう、さらに工夫を重ねる必要があります。

(ミヤザキ サトシ・日本語教育研究科教授)